

平成21年度 第5回
多摩市立学校の一定規模及び適正配置等に関する審議会（第3期）会議録

日時：平成21年8月10日 午後2時～4時15分
場所：多摩市役所 第二庁舎会議室

会長 皆様、こんにちは。大変忙しい中、出席ありがとうございます。昼間の時間を何とかとれないかということで、委員の皆さんの希望をなるべく生かすように、今回初めてとらせていただきました。

それでは、ただいまより第5回目の審議会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局から出席状況の確認をお願いいたします。

事務局 はい。ただいまの出席委員は13名でございます。全員ご参加いただいておりますので、多摩市立学校の一定規模及び適正配置等に関する審議会条例第6条第2項の規定のとおり、過半数の委員のご参加がいただいておりますので、本日の審議会は成立しております。

会長 ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

会議録の署名委員の指名ですけれども、今回、順番からいきますと〇〇委員です。よろしくお願いいたします。

それでは、今日の会議に入る前に、前回第4回の会議結果の確認をしたいと思います。事務局からお願いしたいと思います。

事務局 引き続きまして、事務局からご説明いたします。

これからご説明いたします会議結果は、第5回の審議会のご通知に同封させていただきました。1点目でございますが、会議録署名委員に〇〇委員を指名いたしました。

2点目につきましては、第3回の議論をまとめた「課題等の整理表」を基に、不足している課題や説明不足な項目、不明な項目の確認を行いました。

3点目としましては、委員の皆様から「どんな子どもを育てたいか」、また「どんな学校にしたいか」について意見交換を行いました。このテーマで出た意見を整理したものが資料22の意見の整理表でございます。これが前回の課題にどうつながるのかを検討し、統合についての方法を具体的に進めていくこととしました。

会議結果につきましては以上です。

会長 はい。ありがとうございます。

それでは今日の主な検討に入ります。その前に資料22について事務局から説明をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

教育部参事 それではご説明いたします。資料22をお開きいただきたいと思います。ただいま前回(一定規模担当)の第4回会議結果のご確認をいただきましたけれども、前回お話し合いいただきました意見を整理しまして、これが東西愛宕小の統合の課題とどうつながるかということを資料として用意したものでございます。まず左側の縦の欄でございますけれども、7月29日に協議された意見を項目に沿って整理したものでございます。前回このような資料を作成した際に、フレーズを抜き出したためにいろいろと誤解もありまして大変申しわけなかったと思います。今回は限られた行数の制約はありますけれども、でき得る限り文章として抽出をいたしました。「どんな子どもを育てたいか」ということにつきましては11項目

ございますけれども、人の痛みがわかる、思いやりが持てるような子ども、あるいは善悪の判断がつけられる子ども、他人を思いやるやさしさをつけてほしい等、いろいろなお話が出ましたので、そのようなあたりを抽出しております。

縦に見ていただきたいと思います。その次の半分から下のほう、「どんな学校にしていきたいか」ということにつきましては、この「子どもの人数」や「子ども同士の学びあい」というように事務局のほうでグループ分けをさせていただきました。人数に関して言えば、たくましく育てるのに良い意味で競争があるようなことが良いとか、あるいは学力の面でも競争心が出ると思う等、いくつかございました。

「子ども同士の学びあい」というくくりでグループ分けしますと、子どもなりに社会をつくっているということで、その位置関係がある程度入れ替わるような条件をつくってあげたいとか、あるいは判断力の基は価値観ということで、いろいろな人と接触する機会をつくれば良い等のご意見がありました。

3つ目の「生き生きした学校生活」というくくりで、もし考えたとしますと、子どもたちが学校で生き生きとはつらつとして取り組んでいる姿があればいいとか、縦割り活動がとても良い等のご意見をいただいたところです。

次の「どんな地域をつくって学校を支えていくか」ということについては、ご意見としては両校の特徴である地域に密着している点を生かしていければというようなこと。あるいは地域でできることはそれほど多くないということで、メインは保護者の情熱というご意見もいただいたところです。

最後の「どんな環境をつくっていくか」ということについては、地域でどう見守りサポートをするかということで、働きかけを具体化すべきというようなご意見をいただいたところです。

このようなご意見が、真ん中の欄の7月14日にいろいろとご意見されたところとどのような関係にあるのかということで、あのときはたくさんのご意見をいただきましたけれども、左側の視点に沿って、関連のあるところを真ん中の欄に整理をさせていただきました。東西愛宕小の子どもたちの状況ということでこのような意見をいただいております。なお14日だけではなく29日にも、一部このまとめ方についてご意見があったところについては反映させていただきました。下のほうの欄でも、「どんな学校にしていきたいか」ということについて、例えば①で子どもが減少する中、どうすれば魅力ある学校づくりができるかということとか、規模の大小はそれぞれ良い点があるが、切磋琢磨の場面では少人数は制約がある等、いくつかここに挙がっております。行数の関係で限られた部分がありますけれども、ご参考にしていただければと思います。

なお一番右の欄ですけれども、備考ということで、これは皆様方のご意見ではありませんが、市の教育委員会が今どのような取り組みをしているかということについて、この一番左側の統合に必要な視点にちょうど見合うような取り組みの状況をご参考までに載せさせていただきました。ご審議の際にご参考にしていただければと思っております。細かい説明は時間の関係で割愛をさせていただきたいと思います。

資料22については以上でございます。

会長

ありがとうございました。

それでは私の書いたメモに関係しますけれども、一緒に含めて話をしたいと思います。本日の議題のとらえ方と進め方を諮らせていただきます。言葉の持つ意味というのは幅とか深さとかいろいろあり、同じ言葉でもその人のとらえ方によっていろいろ違う観点があったりして非常に難しいのですが、話を進めやすくするために、意見の整理表がもとになっていますからいつもこれをもとにさせていただいて結構です。この左側に「統合に必要な視点」が挙がっています。結局まとめて整理していくと、こういうことを中心に話をしたいのではないかというふうにまとめたものが、私のメモの最初の●の、「統合を検討するにあたって、『子どもがどのように育てほしいと大人は願っているのか』、求める子ども像を挙げた」の1から6までです。重複している部分がたくさんあるので、このように簡単に書いてみました。例えば思いやりがあるというのはどの項目にもかなり書かれています。思いやりというのは違う言葉でも書いてありますけれども、そういうものが大事なキーワードの一つになっております。それから判断力、自分で判断していくような子どもを育てなければいけないんじゃないかということも、そのように育てほしいという願いですね。それから夢を持つとか社会性、人間性を育てるといったようなこともあります。

今説明させていただいて、1つ追加したほうがいいのかと思ったのがあります。6の次に7として、「積極的に夢に向かって自分の能力を伸ばしてほしい」ということを入れてもいいと思いました。その項目が私としてはまとめられていないかなと思いました。他に皆さんがこれから進めるにあたって、これもあったほうがいいのか、これは解釈がおかしいのではないかな等、ありましたら、どんどん話をさせていただければいいかと思います。

もう1回言います。追加で7番、「積極的に夢に向かって自分の能力を伸ばしてほしい」、そういう積極性を目指している意見をおっしゃった方がいました。こういうことをもとに、メモを整理してみました。これは、上の段に書いてあるどんな子どもに育てほしいかと下の段に書いてあるどんな学校にしていきたいかにも重なる部分があるんです。結局言っていることは同じなんです。ですから一緒に含めて、このように7つの項目に整理させていただきました。ただし、資料22の下に書いてある、「どんな地域をつくって学校を支えていくか」とか、「どんな環境をつくっていくか」については書いていませんので、これは別にして自由にご意見をいただければと思います。「どんな地域をつくっていくか」についてです。両校の特徴である地域に密着している点を生かせればとか、地域にできることはそれほど多くない。安全や、授業ではできない体験等しかできない。メインは保護者の情熱が必要だと書いています。「どんな環境をつくっていくか」、子どもたちが遠い距離を登下校する場合、地域でどう見守りサポートをするか、どう働きかけるかを具体化すべき。これは私のメモに書いていませんので、どこかに入れておいて、一緒に話の中で進めていけばいいかと思います。そこで、どんな子どもを求めているか、どんな学校を求めているかというのは、皆さん方が挙げたこれをもとにあると思うのですが、これが少しでも公共性というか自分たちの主観で自由な思いつきで言っていたのではなくて、その根拠が、多摩市の教育委員会の考え方に非常に近いということがわかります。そこで一番右の欄を見てください。市教委の主な取組み等という欄です。これとほとんど一致しているんです。ですからこれはそのまま生かしていいと思いました。教育委員会の目標に多摩市教育委員会は、子どもたちが知性、感性、感じる心とか道徳心、思いやりですね、及び体力をはぐくんで、人間性豊かな市民として子どもたちが将来成長してほしいという

願い、これは今、皆さん方が入れている部分と一致すると思います。そして「わたしがつくる我がまち多摩」の意識の醸成を目指すということで、自分の地域を愛する子どもということですかね、子どもたちを将来的にそういうふうに育てていきたいんだということとかかわってきます。具体的には●に、互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間とか、市民の一人として、地域社会に貢献しようとする人間とか、人のために貢献しようという思いやりですね。自ら学び、考え、行動する個性と創造力豊かな人間の育成に向けた教育を重視していく、といった意欲的、積極的というふうに先ほど私のほうは書きましたが、方向性は同じではないかと思っています。このことを裏づけできるような市の方針ともかかわることを挙げていますから、これからの話のとき、今のこの考え方に照らし合わせて、真ん中の欄に書いてある「統合の検討課題等とのつながり」とどうつながっているかということになるのですけれども、東愛宕小、西愛宕小の子どもの実際の現状、そして検討課題の解決の方向というのはどうしたらいいのか、このままでいいのか、問題があるとするれば、何をどうすればいいのか、統合という視点からいろいろなご意見をいただきたいと思います。今日はこれが中心になります。こういう実態があるがこれについてこの辺はこうできないのか、もし統合を考えるならば、できないのならまた別ですが、そういうことを考えてみるのが今日の中心になります。ぜひ自由にご意見をいただきたいと思います。そのときの考える基準というのが、今示された市教委の主な取り組み等とか皆さん方が挙げたものを考える手がかり、参考にしながら考えていただければいいかと思っています。そして、そのことで、前回皆さん方からいろいろ出てきたものを私なりにこうではないかと書いたものが●の2番目、3番目あたりに書いてあるのですが、参考にしながら話を進めていただければありがたいと思っております。

進め方はよろしいでしょうか。今の事務局の説明と私のほうの説明で、不足とかわからないとか、そういうのはございますか。

それでは、自由に、どうぞ遠慮せず、わからないところがあったらおっしゃってください。それでは資料22の真ん中の欄、東愛宕小の子どもと西愛宕小の子どもの実態の様子から話を進めます。良い点とか、このまま維持ができるかとか、問題がないのかとか、そういうことを考えてください。一言で言うと伸び伸びしている、施設面でも教育の面でも伸び伸びしている、こういうことがあります。それと関連して、自然がいっぱい、子どもたちはとても元気。山のとっぺんにあって、横が団地でもなく、敷地もあるので環境がとても良い。伸び伸びしていて環境もとても良いと。こういう点について、統合という観点から考えたときにどうなんですか。何かご意見があったらおっしゃってください。

皆さん方、学校を見学しましたよね、東愛宕小の自然とか、こういうものをもし統合というものを考えたときに維持できるかということですね、事務局に聞いてみます。どうですか。

教育部参事 仮定の話ですが、統合した場合、どちらかの学校を新しい学校として使うことになりま(一定規模担当)す。そのときには一定の整備も行い、それから今ここに挙げられている良い面、そういうものは当然生かしていくように考えています。今具体的に何をどうするという事は議論が進んでいませんで、お話しすることは難しいですけども、今ある資源、施設、環境はできる限りより良く維持していきたい、向上していきたいと考えているところです。

会長 今の点で質問やお考えありますか。

では、その次に入っていきます。2番です。子どもの人数に対して地域の大人のほうがかなり多く、ほとんどの行事に地域の方が入っているので、子どもだけでできないことも大人が入ってカバーしており、地域と密着しているところが良い、というところですか。これをおっしゃった方、もう少しイメージがわくように説明を…どなたでしょうか、これをお話しされたのは。

〇〇委員 私だと思います。

会長 はい。少し説明してもらえますか。例えばどのような行事ですか。

〇〇委員 これは、東愛宕小の良いところということで聞かれたことに対する答えだったのですが、人数が少ないながらもほとんどの行事に地域の方が参加していただいて、こじんまりではなく、ちゃんとできているというのもあるし、この中には入っていないかもしれないのですが、地域の方がふだんから見守りサポートをしてくれているので安心して通わせられるという点ですね。

会長 そうですか。子どもはちゃんと守られているんですね。

〇〇委員 はい。大人の目がいっぱいあるという意味です。

会長 大人の目がいっぱいあるから子どもが完全に守られていて。そうですか。そういう面と、西愛宕小のほうで少人数は目をかけてもらえる点で親も安心、先生にいつもついているところはある、こういうのがあります。もう一つは他学年と仲が良い。通常1学年で行うことを2学年で行い、小さい子の面倒を見たりすることができ、兄弟姉妹になることもできる、ということがあります。これはどうですか。〇〇委員、2学年でやるというのは小規模校だけでなく、大規模校でも中規模校でもできますかね。

〇〇委員 大きい規模の学校は無理でしょうね。1クラス、2クラスの学校であれば、例えば地元の幼稚園保育園の子どもたちと交流会をするときに1年生だけではなくて2年生も一緒にやるとかいうことはできますけれども、大きい学校だと子どもの人数が100名150名いて、受け入れる、来てもらう幼稚園の園児たちが15名とか20名なので、全然行事にならなくなってしまいますから、ある程度の人数というのはあると思います。

会長 大規模校では難しいけれども、中規模校くらいならいいですか。

〇〇委員 1クラス、2クラスくらいですね。

〇〇委員 ここに書いてある小さな子というのは幼稚園児のことではなく、低学年の1年生のこと

を指していると思うんですね。だから合同で行ったときに、上級生である2年生が1年生を見るとかだと思うんです。その場合の質問だと思います。

会長 そうですね。

〇〇委員 それは、例えば6年生が1年生のクラスに1学期の間、給食の配膳とか片づけのお手伝いに行くというようなことはうちの学校でやっていますけれども、そういった意味では規模は関係ない。

〇〇委員 一点付け加えてよろしいですか。私は今私的に、相模原の学校にかかわっているのですが、相模原市は何十も学校がありますが、地域を挙げてどの学校も、学校規模にかかわらず、縦割りといって6年から1年までを学年のクラスではなく、様々グルーピングをして活動をするということを学校ごとでやっております。もちろん今〇〇委員からありましたように実際にはその工夫の難しさとかの面はあるのでしょうけれども、私が見ている範囲では、おそらく〇〇委員もおっしゃったようにあまり学校規模は関係なく、学校の工夫の仕方によっては上級生下級生のかかわりはつけられることは可能であると、私はこの数年かかわっていて実感しております。

会長 どうぞ、〇〇委員。

〇〇委員 今ここに西愛宕小と書いてありますけども、東愛宕小も縦割り活動はものすごく熱心です。この間自分たちのつくったお野菜を使ったカレーを作るという大きな行事があったのですが、班ごとのメニューで、それぞれの学年にふさわしく、朝から1年生は野菜を抜いてくるとか2年生はそれを洗う係、5、6年生は前の日にご近所に行ってカレーの材料のお肉をそれぞれ班ごとに工夫をして買ってきて、全部で6つくらいの班に分かれて、それぞれの班のメニューのカレーができて、私たち、ゲストで伺いましたけれども、その他に先生方がつくったカレーが私たちがとりあえず食べていいカレーだったのですが、その後、子どもたちの班ごとのカレーを全部、どこの班がおいしいとか、ひき肉を使った班とか、いろいろお肉とかも工夫してやっていたから、これは別に西愛宕小だけでなく東愛宕小もその意味で言えばとても熱心にやっているところかなと思いますし、人数の少ない分だけ特に仲が良い。特に一、二年一緒ということじゃなくて全体として5、6年生はそういう活動はとても熱心だということで、もし書くなら東のほうでも入れられるのでは。

それから3番。人数が少ないけれども先生方の目がとても行き届いていますから、担任だけでなく、どの先生もみんな名前でお声をかけて他のクラスの子にもお声をかけるということをすごくしている。それは120名の児童をどの先生も。私は今日も学校に行つて昨日のキャンプのご報告をしていましたけれども、〇〇君がねって、名字がなくてもあの子ってすぐにわかって、いかにも〇〇君らしいねって他の学年の先生がおっしゃっていましたから、そういう意味では3番も4番も、小規模なりの良さなのか、それとも、東愛宕小学校、西愛宕小学校が努力している結果なのか、他の学校を知りませんのでわかりませ

んが、とてもよくやっているといます。大規模校時代の東愛宕小学校出身のわが息子の時代もよく縦で遊んでいました。うちの子はユニークだったものですから、よく友達とけんかしても上級生が間に入ってうまくまとめてくれた経験がありますから、これは愛宕全体としてずっと昔からそういう伝統の学校なんじゃないかなと私は思っていますけれども。

会長 なるほど。大は小を兼ねるじゃないですけども、工夫によっていくらでも一緒にできるというのが、今のお話の中から感じとられました。昔はこういう縦割りというのは地域でやっていましたよね。それを今は学校の中でやらないとそういう場所がなくなってきたので、学校の中でいろいろ工夫して取り入れて行っているというのが現実です。それが今お話に出たように規模に関係なく学校の工夫でいくらでもできるという話を伺いました。これは西愛宕小も東愛宕小も楽しい、良い内容ですね。これはどういう形になっても生かすことはできるということです。

〇〇委員、これがそうなんですか。少人数は目をかけてもらえる点で親も安心。先生にいつもついていっているところはあるということですか。

〇〇委員 先生にいつもついていっているところがあるというのは、私はよくわからないのですが、少人数はとにかく目をかけてもらえる点では親も安心だというのが、発言した記憶があります。西愛宕小の学校の良いところはどこですかという質問に対する答えだと思うのですが、これは本当に保護者の安心というだけのことなのかともわかりませんが、今年1年生が15人で、初めてのお子さんで初めての小学校というお母さまもいらっしゃったりするのですが、そういう方たちにしてみれば、先生とすごく近くいられるという点や、ピアティーチャーも含めて2人の先生の目で15人の子どもを見てくれて、とてもありがたいということで安心。それは1年生に限らず、全体的に20名前後のクラスなので先生の目はわりと行き届いているのではないかとこのころで、親が安心だということですか。

子どもも先生にわりと近くいられて、話がしやすいという面はあると思います。

会長 今、既に挙がりましたがけれども、そういうことを基に、今度は私のほうのメモを見ていただくといいのですが、2番目の●です。皆さん方がどんな子どもに育ててほしいか、いろいろな判断ができたり思いやりができたり社会性が育ったりといったことを願っていききたい、これから考えていくときどうしたらいいかということで、そのまま環境を維持していくことが良いのかということになるわけです。様々な価値観を持つ人々とかかわって、ものの見方・考え方が豊かになるように、ある程度の人数がいる学校であると良いのではないかとこの考えが挙がってきたので書いてみました。いろいろな人とかかわれたり、係など変わったりして、様々な経験をしやすくするため、統合によりできるだけ複数クラスになるように、人数を近づける努力をすること。人を増やすこと。そして、もし1クラスであっても人数が少しでも多くなっているのに必要に応じて、考えるということです。今のお話ですね、大は小を兼ねるです。いくつかのグループ分けをして、様々な体験をしやすくするというようなことについてはいかがですか。最初の期待する子ども像に照らしていくと、こういうことも大事になってくるのではないかと思います、まとめてみました。こういう点から見てどうですか。

子どもの人数に対して大人のほうが多いということ。それから少人数は目をかけてもらえるからとても安心だとか、複数の他学年との縦割り、こういう関係はとても良いのですが、もう一つの視点から見て、皆さん方の願うどんな子どもに育ってほしいかという視点から見たときに、こういう状況というのは子どもたちが育っていくのにはそのままが良いのかどうか。もし改善するとしたらどうしたらいいかということについて、ご意見をいただければと思います。どなたか。

指名して申しわけないですが、わかる範囲で結構です。〇〇委員どうでしょうか。子どもの数に対して。

〇〇委員 多分、前回も同じようなことを言ったかと思うのですが、本当に人と接することによって育っていくものだと思っていますから……

会長 それでは、意見の整理表の真ん中の欄を下まで読んでいきます。そういうことも含めてご意見をいただければ、意見が出しやすいかと思います。上のほうに書かれている実態のもとにいろいろ考えていったときに、下の段の「統合の検討課題等とのつながり」というところでいろいろ書いてあります。子どもが減少する中、どうすれば魅力ある学校づくりができるか、これが問題であるということです。それから、規模の大小はそれぞれ良い点があるが、切磋琢磨の場面では少人数は制約が生じる。人数の推移を見ると統合ありきと思う。その上で次の段階で子どもたちに手厚い人的配置をしていく。単なる統合では適正規模にならない。子どもは人とのかかわりで成長する。将来、5、6年先にまた統合の話ということには共感するが、今、目の前の子にとっては今が問題。27年度の少人数を考えると、統合してこの人数で2クラスつくれば良い。友達関係がこじれても、クラス替えがあると思えること。配慮が必要な子どもが人数が増えたときどうなるか。適正規模にならないことは課題だが、27年度には1桁の学年も出てくる可能性がある。統合を考え人的配置は教育委員会に最大限検討してもらおう。子どもは増えると活気が出る。運動会が華やかにできる。統合して複数学年になるくらいの規模になったら、子どもたちもより楽しいのでは。新校の特色をアピールするのが大切。選択制により、地域で子どもを見ることが難しくなっている。地域のお祭りや運動会等、行事へ子どもを参加させることに困っている。東愛宕小では老人会が毎朝通学路に立って声かけをしている。通学路の安全確保が西愛宕小の親の総意。東西愛宕小間の遊歩道は人けがなく、防犯上の観点から避けてバス通りを通学路とすると、通学距離が長くなる。通学路の安全面については、地域住民が考えていくべき。とこう書いてありますけれども、この真ん中の欄を私なりにこれはこういうことでまとめていいのではないかと思います、書いたのが半裁のものです。それについてのご意見をいただければこれが全部集約されるのではないかと思いますので、私のメモのほうを見ていただきたいと思います。

「東西愛宕小の統合の検討課題の解決について」ですが、東西愛宕小を足しても1クラス30人ということであるが、集団生活には15人より30人は、かかわる人の数は多くなる。だから少ないよりは多いほうが多くの人間を知り、たくましい人間関係をつくることのできる可能性が大きいので、統合を生かすように人的配置など考える。必要があれば統合によって生じた財源の一部をこれにあてられるよう努力していただく。教育委員会に

こういう要望をする形になります。もしこういうことが必要であるとするならばですが。3番目に、10人くらい学区外から愛宕の学校を希望してくる子どもが現れるように、魅力ある学校づくりに地域・行政をあげて努力すること。これは学校の教育活動が充実する地域・保護者の協力体制の確立。地域の各サークルで子どもたちをよりよくまとめる。子どもの安心・安全・安定のため、地域の人々・保護者でできることを計画し、子どもを多くの人々で守る。今こういう状況にあるけれども、できたら、今隣接地域の話もあります。二小地区の一部が統合の中に入れたらまたこれに近づいて、より望ましい方向になっていくということですね。これで大体、いろいろなことを簡単にまとめて包含し集約してありますから、こういうことについてご意見をいただければと思います。

どなたか。では〇〇委員からどうぞ。

〇〇委員 他の地域からも、10人くらい学区外から希望してくれる子どもが現れるように、魅力ある学校づくりにといるところで、今の多摩市にはない形を。縦割り班というのは、結局どの学校でもやっていることだと思えます。そうではない何か指標が必要かなと思えます。現実的なことを言うと、学力向上をこの中に入れていただきたいです。小学校から中学校、高校に行くときにそこのところでやってきた学力というのが受験のときにかなり影響してくるのが現実なんです。うちの子を見ていてもそうです。東西愛宕小両方、今の人数を足したところで、マンモスには絶対ならないわけですね。ということは、目が行き届くというこの少人数的なところで、個人個人の能力をもう少し上げていくという部分で、学力のことに關しては他の学校よりも断トツあそこは違っているというのは、私はこれから必要ではないかと思えます。特に、西愛宕の地域にしてみれば、私学に行かれる方が、小学校から結構います。中学校もいます。私立に行かなくても地域の学校の学力がかなりあるとなったときには、そういう人たちも受け入れていく。もちろん底辺の部分でも少人数でわからない子にはしっかり教えていくような手厚い方法をとっていくという形で、とにかく何か他とはちがうんだよという特色がすごく必要なのではないかと私は思います。

会長 ありがとうございます。そういう意見をどんどんおっしゃってください。今のように学力が高まれば、学校として一つの特色になってきますよね。人的配置の問題とかあろうかと思えますが。その点どうでしょうか。教育委員会でも何か考えられる方法というのがありますか。学力向上、維持とか改善とか、統合後も維持ができ、むしろ向上に努力する措置というの考えられるのでしょうか。

教育部参事 前回もご説明いたしましたけれども、もう少し学校の現状を説明いたします。その前に(教育指導課長事務取扱)私は前職が小学校の校長でございました。指導主事等を経てこちらに参っております。まずその立場から言うと、学校の基本的な機能の一つはまさに学習です。したがって学力向上はまさにそのとおりです。それから特色を出そうということでございますけれども、現在各学校は授業時数も新しい学習指導要領になって増える方向でございます。したがって、学習時間以外に何かたくさん時間をとって特色を出していこうということはかなり厳しいだろうと思えます。以前に比べ自由に裁量できる時間は少なくなっています。それ

から学力という問題ですけれども、これはまさにご指摘のように学力向上は学校の大きな使命の一つです。本市が行っておりますのは、これは他市にはないことですけれども、ピアティーチャー制度というのを導入しています。もう少しはっきり言いますと学生は1時間1,000円です。例えば一番配当の少ない西愛宕小、東愛宕小は特別支援学級がありますので、特別支援学級を除けば西愛宕小も東愛宕小も全く同じですが、約2,000時間以上雇えるだけの手当をしております。問題はこれをどう使っていくかということですが、様々な校長先生方のご意見を聞きますと、学校によっては学力向上そのものに使っていたり、また通常学級にいる特別に支援が必要な子どもへそれを向けていくという使い方をしている学校も多いと聞いています。

現在、東西愛宕小の問題を考えているわけですが、私といたしますとここだけではなくて全体を考えていかなくてはいけない。全体の学力向上を図らなくてはならない。といいますのは、当然義務教育でございますので、ある学校にもものすごくたくさんの支援を行うということが果たして他の学校、市民の方々からどのようなご意見をいただくことになるかという視点も合わせ持って考えなくてはならないと思っております。したがって、前回もご説明いたしましたように、ピアティーチャーにつきましては、主に児童数を基準にしております。ただしこれも前回ご説明いたしましたが、小規模校のほうが様々な事情から手厚くなっております。例えば最大規模である多摩第二小学校と西愛宕小学校を人数で比べますと5分の1から6分の1ですが、ピアティーチャーとして配当している額は2分の1くらいになっています。つまり大変手厚いということにはなっているということでございます。説明が十分ではありませんけれども、私どもといたしましては財源、投入する予算については規模を度外視して何かある学校にたくさん投入するということとはどんなものかなど、これは先ほど申しました市民の方のご意見等もあります。議会ですね。そこは考えなくてはいけないだろうなと思います。ただし、学力の状況には差がございます。市内にも差がございますので、特に学力に課題のある学校には今後も何らかの支援をしていかなくてはならないだろうなと思っております。以上でございます。

会長 統合によって、場合によっては特別にいろいろな配慮等を考えていただけるということですか。

教育部参事 それは、私がお答弁できるところではないんです。いずれにしても統合でどのくらいの(教育指導課長事務取扱)経費があるということは私が申し上げる立場にはないということで、申し上げられません。申しわけございません。

会長 はい。

今の段階でよろしいでしょうか。少なくとも学力をつけるために何らかのいろいろな努力をしていきたいということで。現在の小規模校よりも、統合すれば少しは大きくなりますから少しは変わってきますよね。そういう、今の状況ですけれども。

他にございますか。いずれにしても学力がつけられるような体制をぜひ願いたいということですね。これは〇〇委員からの非常に貴重な意見、大事なことですね。どの学校もそうですけれども、学力が維持、向上できることを望みたいと思います。その点を教育委員

会にお願いしてみることは考えてみても良いと思います。

他にございませんか。

〇〇委員 少しずれてしまうのですが、学校というところが何をするとところか。多分知的なものを得ながら集団教育もしていきましょうと思うんです。今、知的な部分の学力向上が挙がってきましたけれども、知力だけだったら家庭教師に近いことが大きな力が出るかという、意外とたくさんの集団の中での切磋琢磨し合った競争原理みたいなものですか、そういうものも大きな効果があるのだろうなという気がいたします。資料を持っているわけではないので自分が子育てをしながら周りの方を見て、私は4人いるのですけれども、おそらく1人や2人よりも3人、4人になったほうが子どもたちは強くなっていくし、親も右往左往しなくなくなるなというのは実は感じていまして発言しました。

会長 今回のことで、皆さん何か、経験とかでご存じないですか。子どもたちはだれを一番モデルにして生きているかとか、伸びていっているかとか、そういうのを皆さん方が小学校時代、中学校、高校で経験されたことは何かありませんか。私がある資料で調べた結果、一番子どもたちが望んでいる、求めている、いつもモデルにしているのはアニメの人物なんですね。2番目がスポーツ選手なんですよ。3番目は友達なんです。皆さん方も多分何うとそうではないですか。学校に行ったときに心配だな、友達と仲良くなれるかな、うまくいかなどいつもそういうことを経験されていませんか。父親や母親、先生は最後のほうになってますよね。そういう統計がありますけれども、そのことを考えたときに、今のような学力の問題もいろいろな視点から考えていいと思います。

その他、統合にあたって私が書いていることについて、それは違うとか、もっとこう考えていいんじゃないかということがありましたらおっしゃってください。

〇〇委員 学力のことでいいですか。今、小学校の校長をやっていますけれども、それまではずっと中学校にいましたので、小、中の9年間で子どもたちを見た経験から申し上げますと、子どもたちにとって1年生からそうなんですけれども、授業の中身がわかるかどうかがすごく大事なことなんです。勉強がわかるというのがまず第一歩で、特に3、4年生くらいまでは自分がクラスの中で認められることの一つとして、とても大事なことです。勉強がわかると低学年の子どもたちは急に跳びはねちゃったりしてかわいいものですがけれども、それくらいわかることが大事で、競い合うというのはもう少し後だと思います。中学生くらいになるとクラスの中でおれは何番目かだとか、そういう気持ちは働きますけれども、小学校の場合はまず手厚い指導をしてあげて勉強がわかるという、それが1つだと思います。ですから手厚さという意味では学級の人数はそれほど多くないほうがいいんです。ですけれども、いろいろな経験をするという意味では、学年の人数は多いほうがいいです。ですから小さなクラスで2、3クラスというのが理想ですね。それが1つの目標になったらいいかなと思います。

〇〇委員 低学年のとき、小さなクラスで2クラスが理想というのは……

〇〇委員 高学年になっても、小学校の段階ではそれほどクラスの人数は大きな問題ではないと思います。高学年になればなるほど学年での行事というのが増えますし、それよりも勉強がわかるというその感覚が大事です。とすると学校が楽しい。1日の生活の半分以上は授業ですから、授業がわかるというのは楽しいんですよ。そこがやはり大事ですよ。

〇〇委員 ということは、例えばクラスの数が選べなかったら、1つのクラスに2人の先生がつくことも良いということですよ。

〇〇委員 いろいろな意味で、それが許されれば。ただ、どの学校も子どもも保護者も教員も、クラスの人数がどうなるかはやってみなければわからないことなので、どうしようもないんですよ、これは。ただ、切磋琢磨させることに視点を置くよりも、子どもたちがやっている勉強がきちんと理解できる、今日わかったよと、帰ってお母さんに話ができるような、そういう指導が新しい学校でも充実できたらいいですよ。

〇〇委員 市教委の方がピアティーチャーという言い方をなさいますけれども、それよりも現職の先生方に力をつけていただくほうが大切だと思うんです。私ども今自慢できますけども東愛宕小学校はとって先生方一生懸命勉強会をしたり、自費で研究授業を一生懸命やっていたので、正直に言いますと現実の問題のある子どもたちを見ていただくことが多いですけども、今とても良い雰囲気です。ですからもし来てほしいと言ったらぜひ来て、すごく先生方がいいわよって言えるんです。クラスの子どもにとって、他にサポートの先生がいくらついても、やはり担任の先生なんです。ですから人数を多く、場合によっては特別この子には1人つけてあげなくてはいけないという子どもは別としても、担任の先生が気持ちよく良い仕事をできるようなサポートをしていただけるほうが、私は正直言ってうれしいです。研究体制ができるためにもし人数、副担任がいれば研究できるのだったら副担任つけてくださったらうれしいです。

先ほど多摩市はすごくピアティーチャーを、とおっしゃいましたけれども、ただ数が多ければ子どもにとって良いのではなく、本当に実力のある先生がしっかり子どもの目を見ながら授業をしていただけるのが何よりで、声かけひとつが全然違うんです。私たちから言いますと今年は当たりとかはずれとかって、正直に言うと保護者はみんな言いますけれども、それは親のほうも先生を育てる努力もさせていただいていますし、相談を受けたら違うよ、こうしたらいいよと言いますけれども、その部分をちゃんとしていかないと、ただ人数的にケアしたから大丈夫では済まないと思うんです。つまり先生方もやりがいのある学校だったら、東愛宕小、いっぱい問題あるけど、ここの子どもたちの目を輝かせるのが楽しみだよと、きっと今のうちの学校の先生方みなさん思っていると思うんです。人数が少ないかもしれないけれども、ぜひ運動会を見に来ていただきたいのは、華やかなんです、十分に。去年も5、6年生が組み体操なんですけれども、5年生はいろいろ事情のある子どもたちが多かったので、前日まで組み体操が全然仕上がらなかったのですが、当日頑張って仕上がって、担任の先生は号泣していらっしゃいました。若い先生がいっぱいいらっしゃるなと思ったらピアティーチャーから教員になった方が、今日はおれ空いているからってみんな応援団がいっぱい入ったんです。東愛宕小学校の教師集団卒業という

のは彼らにとってはとても財産なんだなと思って、何だか知らないけれども先生がいっぱいいて、その人たちが本当に今の職員と一緒にになりながら、子どもたちを見ていてくれたんです。もし小規模で寂しい運動会だと思ったらとんでもなくて、華やかな運動会だと思います。それから応援団のほうも毎日立っている老人会が来賓席にいますから、声かけが違うんです。自分のお孫さん以上に〇〇ちゃんなんて叫んで。それは学校の運営の仕方ひとつなんだろうと思っています。ですからとても良い学校だよ、ぜひ来てねって自信を持って言えるんですね。だからその部分、教育委員会に応援していただきたいのはピアティーチャーの数ではなくて、先生方がより努力しやすい部分で研究体制をうまくしていただけたとかの応援をいっぱいいただきたいと思います。私はいろいろな活動をしていますけれど、正直に言うと問題のあるほうがやりがいがあるんですよね。だから長くやっていますけれども、くじけそうになると必ず新しい課題をつくって、それで一生懸命やる。だから、うまくいって平和だなっていうよりは、少し問題があるほうが先生だってやりがいがあるから、ぜひ東愛宕小学校に転勤していただきたい。やるぞっていう先生にいっぱい来てほしい。今、その意味ですごく良い状況にあるのではないかなと思っています。だから小規模であることと課題もいっぱいあるということは逆にプラスになっているのかなと思っています。

会長 ありがとうございます。
 はい、どうぞ。

〇〇委員 今の〇〇委員の発言の中にあつたことで、これはいつ言おうか、今日は言わないで帰ろうかと思っていたことが同じ内容だったので一応言っておこうと思うのですが、今日はオブザーバーも来ていないのですけれども、いつも審議会後はオブザーバーの方と傍聴に来ている西愛宕小の保護者で、統合委員会というのをします。次回の審議会のときにはどういう発言をするかということをいつも5、6人で話し合っているのですけれども、前回の審議会後に話し合ったときに、今日言ってきてほしいことがあるということで、前回の蒸し返しみたいになってしまったり、いつものように揚げ足取りみたいになってしまうのかもしれないのですけれども、前回、少人数だつた順位が卒業まで変わらないケースがあるということが出たと思うのですけれども、本当にそれもあるとは思いますが、先生の力量というのもすごくあるのではないかというのが出たんです。今、〇〇委員がおっしゃったように、西愛宕小で言いますと現4年生が去年まで本当にすごいことになっていて、授業中に何人も、小学校3年生だけでも授業から飛び出していつてしまったりとか、休み時間が終わっても教室に戻ってこなかったりとか、私たちからすると自分たちが中学生とか高校生くらいのときにそういう子がいたよねというようなことが、3年生で起こっていたわけですね。先生もすごく大変そうで、何人もピアティーチャーの先生とかとかかく手の空いている先生だったり、校長先生、副校長先生も追っかけて歩いてということが去年1年間ずっと起こっていて、今年違う地区から新しい先生が入って来られて、ご自分は4年生をとにかく見たいという強い希望で4年生を見ることになったようなんですけれども、あんなにしっちゃかめっちゃかだった、授業中も大騒ぎで授業にならなかった子どもたちがきちんと座っていると。座っているのが良いとかいうことではないのですけれど

も、先生がその子たちにすごく目を向けているというのが現状で、要は今までは何かクラスに問題が起きるとまたお前等がやったんだらうという形で問題児扱いされて反発してというのがすごくあったのですけれども、新しい先生が入って来られて、その子たちにすごく目を向けてくれているというか、その子たちの声もすごく聞いてくれたりとか、放課後その子たちが遊んでいるような公園にわざわざ行って、どうせ5時になってもお前ら家に帰らないだらうから一緒に野球やるぞと言って野球やって遊んでくれたりとか、そういう先生との信頼関係というのがすごく大事なんだなというのを現4年生を見ていてすごく感じています。いつもオブザーバーで来ている方のお子さんが同じ4年生のクラスなのでそういうのを目の当たりにしていてすごく感じるよということをしごく言っていて、こういう言い方は失礼なのかもしれませんが、先生方の力というか質と言ったらすごく上から目線な感じだと思うのですけれども。子どもたち同士のトラブルがあって親が相談して先生方に入ってあげてほしいということをお願いしてとりあえず2人の話は聞いて、こういうふうにしておきましたから後は知りませんという対応の方もすごくいっぱいいらっしゃると思うんです。そうではなくて、子どもの目線に立って子どもたちと体当たりとか本当に気持ちをぶつけ合ってください先生がたくさんいらっしゃればいいのかという。それは人数云々の前に子どもたちがすごく寂しい気持ちがいっぱいあると思うんです。ご両親、共働きだったりとか母子家庭が多かったりとか。そういう中で、どんな大人が自分を見てくれるんだらう、わかってくれるんだらうというところを見たときに、そういうところも出てくるのではないのかなと。必ずしも友達だけとかかわりではなく、大人とのかかわりもすごく重要では。別に私は皆さんどう思っているかわからないですけども、統合に反対しているわけでもないんです。そうではなくて、それ以前に考えることがあるのではないかと。ただ少ないからくっつけるではなく、もっとその現状を見ていただいて考えていただけたらということで、西愛宕小の現4年生に関して言えば、せっかくここまで落ちついてきたのに、いじってほしくないというのが正直、多分この4年生のクラスのお母さん方の気持ちだらうという。必ずしも統合が絶対反対というわけではなくて、学年学年で細かいことがいろいろとあるので、そういうことも考えて例えば統合するのであっても年度を考えていただいたりとか、もっとすごく長いスパンで考えていただきたいということなんです。

すみません。何か話がずれたような……

会長 いいですよ。今のように前提の問題があればそれはそれなりに言っていたらいい。それは大事なことで、今の統合にかかわることで全部つながっていますから。4年生が困るとかそういうことも、こういう形のものはないかということも言っていたらいいですよ。そういうのは条件とかいろいろなものが考えられますから、子どもにとって一番良い方向ということで考えていただくべきですから。それは今のようなご意見をいただければいいと思います。ただ、学力をつけるという意味で、先生方の問題という1つの視点があるのですけれども、教育委員会の目標にもあるように、学校・家庭・地域それぞれ連携、責任を持ってしっかりやるということが書いてあります。そういう視点で先ほど〇〇委員がおっしゃったように学校、保護者みんな挙げて協力しているとおっしゃっています。そうすると学校の中の先生の役割も違ってきます。あれもこれもやんなきゃいけない

と全てをやっている先生の状況と、1つのことがしっかりやりやすく力をつける指導をしやすいとかいろいろあるかと思いますが、こういう学校・家庭・地域それぞれの責任を果たす、連携して行くという視点を考えていくことも大事だと思います。ぜひ今のよ
うに、統合という視点から見てどうかということですね。この辺が問題ではないか、この
辺はこう解決できないのか、そういう話をぜひ言っていただければと思います。

他の方どうぞ。〇〇委員。

〇〇委員 今、皆さんのご意見をお聞きしていて、もっともだなと本当に思います。学校を預かる
者として、良い学校をつくらうとしたときに一番浮かんでくるのは皆さんと同じように私
も良い先生といますか、力のある教師ということが経営をする立場でも浮かんできます。
いつかもお話ししましたが、学校の中にはいろいろな教師がいて、力ある教師
はそこから力を伸ばしていかなくてはいけないし、若手は若手でこれから。熱意はいっぱ
いあるのだけれどもまだまだ指導技術は未熟という者もいます。〇〇委員から育てていた
だいてという言葉がありまして大変ありがたいとは思いました。学校というのは人
が基本です。そこには教師がいて、生徒がいる。保護者がいる。地域の皆さんがいる。そ
このところを、人ということ考えたときに教師の力を子どもたちと触れ合う中でつけて
いく。もう一つはその教師の良さを引き出していく。そして保護者の皆さん、地域の皆さん
の力を束ねてさらに大きな力に変えていく。そういう教師という意味で校長先生、リー
ダーになる方もそういう立派な人についてもらいたいという。人的配置という言い方をし
て校長、教師、そして保護者の皆さんのお力を束ねていくということが出てくるのではな
いかと思います。学力のこと、それから生活面も出ましたけれども、長い目で見たときに
どうなんだろうというときに、私のつたない経験を少しお話ししましたが、本当に少人数
の中で私自身は伸ばしきれなかった子ども、若かったのですけれども自分なりに一生懸命
やりました。夜も行って生徒を教えるようなこともやっていました。それでも力をつけき
れなかったのは、子どもたちの中で自然の中で学び合いということもありましたけれども、
そういう部分がほとんどなかったです。中学生ですが、競争相手に負けないようにしよう
とか、そういう気持ちがまったくないと言っていいくらい。そういう中で育ってきて力を
つけ切れなかったなというのはそこじゃないかなと。そこで人数が必要なんだろうなとい
う気がします。授業というときに人数が少なれば力をつけられるかというところは言え
ないのではないかなと思います。学力ということ考えると授業が一番で、昔一緒にやっ
た優秀な数学の教員がこんなことを言いました。少人数は授業が転がらないと。こんな表
現です。要するに良い発言をする子がいて、間違っただけを発言する子がいて、間違っ
たことを責めるのではなくて、間違っただけがみんなのことになって、授業が展開して
いく。それは人数がいなくてできないんだ、少人数どうすると相談したときに、まじめな教員
でしたけれども、そのようなことを言っていました。長い目で見たときに人数が、子ども
が切磋琢磨する中で育っていく意味で必要なのかなという気がします。

会長 どうでしょうか。今のご意見に関連しても別でも結構ですけれども。

〇〇委員、お願いします。

〇〇委員　私は北諏訪小学校なので、大規模校になるのですけれども、4年生の男の子を抱えています。今の担任の先生は素晴らしいです。できない子を、学校が終わった後すごく遅くまで残らせて見てくれています。できない子を見るようにしてくれているのがわかります。でも、夏休みに入ってから特別な授業、補講をしてくださるときも、うちの子は呼び出しがなかったのですが、行っていいですかと言ったらどうぞ、勉強したいのだったらどうぞという感じだったんです。人数が35人くらい多いのですが、一人一人できていないところに小さいポストイトを張って、できたらはずしてくれる。先生がはずさないためという、本当に細かいところを見てくれている先生です。でも、その前の3年生のときの先生は、宿題を提出してもしていなくても、つけていると言っているのですけれども、やっていかない子に対して何も言わないです。だからやらなくなってしまう。先ほど聞いていて、小規模はもっと目が行き届いているんだろうなと思って、本当にうらやましいです。ただ30人くらいでも、先生の能力次第で担任の先生1人でもいけるんじゃないかと思います。4年生から勉強がすごく難しくなっていくので、親も教えることが難しい。1、2年のころは宿題も親はちょっと見てあげるくらいでいいのですけれども、4年生くらいになると私たちが教わった頃と違うように教わっているので、親はちょっと入れないなと思ったので。特色ある学校、魅力ある学校づくりで、もし、二小の人が、私だったら北諏訪小の今でいう諏訪小は小規模なんです。みんな北諏訪小に行くんですよ。諏訪小は小規模で本当に先生の目が行き届いているという宣伝はすごくされているのですけれども、北諏訪小を選んでくる。何でかというと特色がすごくあるからかなと思うのですけれども、何か今話を聞いて小規模もすごくいいななんて。もう一つ言いたいのは放課後の子どもの過ごし方です。今、共働きの方のお子さんは学童に行っています。私は働いていないのですけれども、私の子ども、小学校1年生の女の子が帰ってきて公園に行かないんですね。友達と約束してこなかったって。だけど家にずっといられてもどうなのという感じなんですけれども。放課後に何か学校で、例えば校庭で何かしてくれるとかあると、今杉並区とかで放課後遊ぶ場をつくってくれるというところを、もし新しい学校でモデル校みたいのできるのであれば、何かそういうのを考えてくださるとすごく特色、魅力がある学校に見えるのですけど。

会長　そうですね。今の点どうですか。人的配置という面については、先生の活用という言葉はよくないかわからないけども、それによっていくらでも効果というのは考えられるのではないかと思います。ここまでのお話を伺っていて。先ほどの大規模校、中規模校でも形態は幾らでも出てくる。工夫はいろいろできる。具体的にどう工夫して先生たちを活用できるかという、ピアティーチャーの形でも、単なる形だけでなく、先生たちにどう活躍してもらおうかというのが、学校で工夫すればいくらでもできるのではないかと、みなさんのお話を伺ってそう思いました。そして〇〇委員がおっしゃったように学力をつける、学力の維持、定着していく方向ができていくということを求めたい。特色というのは変わったことをやるのが特色であるとするなら、学力をきちんとつけることも特色の一つに考えてもいいですよ。そういうこともあるかと思いますが、それから今言ったように放課後の問題とかもあるのが、これもまた別の新しいいろいろな対策が必要になってくるかもわかりません。不審者の問題とか、対応の問題とかが出てくるかもわかりませんが、そういう

ことが解決できるかということになるかと思えます。

その他ございますか。

〇〇委員 先ほど〇〇委員がおっしゃった、今の先生がすごく良いという話ですけれども、もしも仮に統合になった場合、それぞれのいらっしゃる先生が全員というわけにはいかなくなるわけですね。そうしたときにはある程度の何かアンケートといったらおかしいですけども、ぜひこの先生にはいてほしいとか、また反対にこういう先生をお願いしたいとか、そういうのをこの新しい人たちには何か選ぶとか、参加してもらおうとか。現実にとちらかの先生が大勢になってしまったら、少ないほうの子どもたちは寂しい思いをするというのがあると思うんです。中学校で統合して、あるお母さんが〇〇先生は残ってくれなかったとか言っている方もいらっしゃるので、その辺のそういうスタッフ的な学校側の教師の選択…本当に保護者側の意見で申しわけないのですが、良い先生、ここまでなったんだから、最後までみたいなのがあると思うので、それを。

会長 参事、お願いします。

教育部参事 教職員の人事をしております。まず前提、今までの考え方です。教職員の人事異動には、(教育指導課長事務取扱)6年という年限を切ってというルールがあります。従ってそのルールがまず最優先されるということ。次に統合にあたっては基本的には両校の先生方と、外部から新たな息吹を入れるという考えをしています。どなたにお残りいただくかということについては、特に校長先生方のご意見をいただきながら、かといってルールがございますので。また、規模が大きく違う場合、例えば多摩第二小と竜ヶ峰小の場合は規模が大きく違いますので、物理的に無理だということもございます。そういったことから判断をしております。先ほどの人的支援の問題で、私少し誤解を招く発言をしたかなと思うのですが、私には今、この審議会のご意見を最優先しますよという権限がないわけです。私は実行部隊ですので。したがってそれは教育委員会や議会を経て決めることですが、そのご要望を出していただくということまでも私が否定しているわけではございません。何度も申し上げますけれども、現状は教職員についてはそういう形をとっています。重ねて申し上げますと、小規模校の場合は、初任者を配置しづらいのです。つまり指導いただく先生がいない。それからもう一つ言いますと、学校の規模によらずに校務分掌というのはあるわけです。量は若干違いますが。したがって小規模校は当然ながら初任者を張れないということから、比較的経験のある方々が配置をされているという実情がございます。例えば今日おいでの〇〇委員のところは今年初任者が3人でしたか、大変ご苦労いただいていますし、多摩第二小も多いですし北諏訪小もいらっしゃいましたよね。もう一つは今、ベテランの先生方がどんどんお辞めになっているんです。教育界の2007年問題です。したがって大体年間1,400人くらいの小学校の先生を東京都で採用しています。1,400というのは東京都にある小学校の数とほとんど同じです。したがって各校お一人ずつくらい初任者を張らなければならないし、本市もそういう状況にあるのですが、小規模校は同じ学年に指導していただく先生がいないということから、配置がほとんどできません。したがってその分を比較的中規模から規模の大きい学校で初任者を育てていただいているという現状があ

ります。そういったことを考えますと、これは意図せずですけれども、東愛宕小も西愛宕小も初任者を張ることはほとんどできませんので、ある程度経験の豊富な先生方が配置されているという実情はあろうかと思えます。

少し余計なことかと思いましたが、以上です。

会長 よろしいでしょうか。これからの東京都の学校の現状をお話しいただきましたけれども、どうですか。わかりましたでしょうか。

〇〇委員 今、参事から若い先生が増えているという話がありました。ベテランの先生でもそうですけれども、ピアティーチャーの先生が入って一緒にやってくれることで、授業になかなか集中できない子どもについていただくとか、少し課題を下げて基本に戻ってみようかというのをやっていただくとか、そういう意味でそういう特別の配慮をすることで、さっきも言いましたけれども、その子がとりあえずこの時間よくわかったという気持ちが持てる、そういう効果がとてもあるんですね。ですから指導力のある教員がたくさんいれば本当にそれは校長としてもありがたいし、うれしいことです。子どもにとっても良いことだと思うのですが、ただ急にはそういうふうにはならないので、そうなるまでの間はピアティーチャーには今後も頑張ってもらい、一緒に育ててもらうという仕組みはとても良いと思います。

それからさっき特色のある学校ということで、〇〇委員から放課後の過ごし方という話がありましたけれども、多摩市の何校かの小学校では、放課後子ども教室という制度を取り入れて、地域の方々が子どもたちの面倒を見て、放課後に遊ばせてくださるという学校があります。私の学校も毎週水曜日だけやっていただいているのですけれども、校庭で子どもたちが遊んでいるときに安全確認をしてくださったり。毎日というわけにはいかないものですから水曜日に来ていただいています。そういう方がいらっしゃるの、我々は安心して職員会議とか、水曜日は大体会議日ですから、そういうものに没頭できるというふうになっております。そういう制度をたくさん取り入れるという手もあります。ただ、意見の整理表にも書いてありましたけれども、地域の方々の学校応援部隊のようなものが厚くないと、なかなかそういう制度にはならないかなとも思います。幸い、東愛宕小も西愛宕小も地域性が強い。地域の方、保護者の方も非常に熱心で、いろいろな活動に取り組んでいらっしゃるということで、良いところが書かれていますから、働きかけを上手にすれば、もっと参加してくださるのではないかと期待をしております。

会長 はい。ありがとうございます。話が行き詰まってきましたが、今、一定規模ということと統合を検討して話を進めています。統合というよりは中身の、学力をつけるとか。思いやりがあって判断ができる子と言ったけれども、また学力をつけるということが出てきていますね。委員のお2人、最初に言いましたように、「知、徳、体」ですね。徳は、思いやりをもたせるということを重視して皆さんたくさん意見を出しましたけれど、知識の面で学力をきちんとつけるということも今日は大事な話題になったわけです。そういう学力をきちんとつけて思いやりがあって判断がきちんとできる、そういう子どもを育てるためには、学校としてあまりにも少人数だとどうか。あまり大きすぎてもどうかという形で話

が進んできているわけです。そういう視点で統合を考えたときに人数というのは、ある程度の人数は、これくらいあったほうがいいのか、いやあまりに少ないんじゃないとか、そういうことを、私の参考メモをもとにもう少し意見をいただければと思います。統合の方向性がそういういろいろな問題を解決できそうかどうかということも挙げていただければありがたいと思います。

小規模校の良さはいっぱいありました。でも、そのままの形がいいのかどうかということになります。統合によって少しでも人数が増えていくことに意味があるのかということ。そういう点で話を進めていただければありがたいと思っております。

〇〇委員、何かご意見いただけないですか。いつもすばらしいまとめをいただけるので。

〇〇委員 先ほど、規模というより子どもの数という話があったと思うのですが、〇〇委員がおっしゃったように子どもの数を考えるときに、学校の単位での数なのか、クラスの単位での数なのかというのがあってはならないかと思うんです。子どもの数というのは先ほどいろいろな接触する機会とかいうことと言えば、多いというのは学校の単位で多いのは良いのではないかと思います。

もう一つ、東愛宕小と西愛宕小の良さが出ているのは、これはクラスの単位の中での人数がある一定の数しかない、制限されているのが両校の良さということを出ていることになるのではないかと思うので、そういう意味では学校の単位とクラスの単位で人数を考えてもいいのではないかと思います。

会長 どれくらい、どういう状況がいいでしょうか。〇〇委員としては。

〇〇委員 学校の人数は多い、すなわちクラスが多くなる、一方クラスの人数は少ないほうが良いのではないかと。20人とか。人数が何人というのは、前回お話があったと思うのですがそれは予算の問題があるので。東愛宕小と西愛宕小が今までそういう少人数で続けてきた学校であるということを考えれば、いつまでもそういうのが、というのは難しいかもしれませんが、数年という単位かもしれませんが、ある期間はクラスの人数を少なくして教員の数を増やしていくということも、予算措置の中で検討してもらっても良いのではないかと。それには議会の承認が必要であれば、議会の承認を上げてもらえばそれは良いことだと。それは議会が承認しなければいけないのでいいのでしょうか。そのかわり、住民の人たちはそういう承認しない議員を次に選ぶか選ばないかということも考えればいいことなので。

会長 前回、クラスの人数の件についてはお答えいただきましたよね、一度。

教育部参事 はい。

(教育指導課長事務取扱)

会長 だからこれは法律が…ある区によっては一部そういうことが条例でできているところがあるのですが、その問題はありますよね。多摩市の場合は今のところ…すみません、もう

1 回今のご説明を。

教育部参事 はい。県費負担教職員制度です。1学級40人というのが都の規則でございます。多摩(教育指導課長事務取扱)市はそれにのっとっています。ただし、これは様々な手続きを踏む必要があろうかと思えますけれども、市が独自に教員を雇うことは全く不可能ではございません。したがってそのあたりは私がなかなか話せないところですが、私どもとしては予算措置があって、何とか人をつけるという合意が得られたとしましたら、その方向で当然、私どもの課としては努力をしていくところでございます。ただし、正規の教員を採るとなりますと、かなりの額が必要になりますので、例えば一度先生をご退職された方、60過ぎた方をつけるとかですね、あるいは1部分を習熟度別の少人数指導にするとか、現在算数で少人数指導が行われていますけれども、これは都がつけているのです。プラスアルファで。それと同じような形で市がつけるという方策はあるということです。ただそのあたりについて財源が本当に確保できるかできないかということは、私から申し上げられないのですけれども。ですからルールはあります。それは東京都と国が先生方の給料を支払っていますので、それに市がプラスアルファすればさらに手厚い支援はできます。ただ、何度も繰り返して申しわけございませんがここ、東西愛宕小だけにそれをやっていいのかどうかという問題は依然としてあるだろう、ただし統合という浮いた財源があるのだからそれをという考えもあろうかと思えます。そのあたりは、可能性はあるということで、そういう前提で論議いただいてもいいのだろうと思えます。

それから、先ほど〇〇委員がおっしゃられたように、現在は先生方についても先ほどのような先生方をよく知っている校長先生のご意見を最大限取り入れておりますけれども、それについても例えば審議会なり、保護者代表の方が何らかの意見を表明したいということ私を私が否定するものではありませんけれども、そういった考え方も1つだろうと思えます。先ほどは現状を述べたということでご理解いただければと思います。

会長 今、皆さん方がおっしゃったことは審議会でもまとめて、実現できない場合もあるかわからないけれどもぜひ生かしてほしいという方向では、ご意見としてまとめの中に入れて出していくこともできるわけです。

それでは、統合に関しての話が子どもの学力や特色あること、先生の数、そういうほうに中心が移っているのですが、もう少し他のことをやってからまた一緒に考えてもいいかと思えます。意見の整理表の左下のところ、「2. どんな地域をつくって学校を支えていくか」というのと「3. どんな環境をつくっていくか」というのがありますので、こちらに話を回して、後で必要があれば必要などころに戻りたいと思えます。これはどうですか。2. どんな地域をつくって学校を支えていくかということについて、両校の特徴である地域に密着している点を生かせれば。というのと、地域にできることはそれほど多くない。安全や、授業ではできない体験等しかできない。メインは保護者の情熱。とあるのですが、これは保護者がもう少し学校を支援してもらっていろいろなことをやるという意味ですかね。〇〇委員のところを学校を地域の方、周りの方がいっぱい支援しているというのは、こういうこととは違うのですか。例えばどんなことですか。

〇〇委員 それこそ見守りですね。

会長 見守りですか。

〇〇委員 はい。見守りサポーターみたいに。毎朝、もう4年立っています。

会長 朝、いつ頃ですか。

〇〇委員 朝の登校時。

会長 登校時間に見守りをするという支援をしているわけですね。

〇〇委員 そのことで子どもたちと顔なじみになっていますから、学校行事にお客様で来たり、学年行事の中にある、昔遊びのときに教えに来ていただいたり、今度の運動会では地域に愛宕音頭という地域の方が作詞作曲した音頭があって、それは必ず東愛宕小学校運動会ときには踊ることになっていますので、もちろんご指導も地域の方に入っていていただいて、当日も一緒に踊っていただけると。たしか9月、10月が運動会ですから2学期になったらすぐ私、向こうと連絡をとって練習時間をどうするか連携をとらなくてはと思っています。そういうふうなこととかです。

会長 意見の整理表の中で、選択制により地域で子どもを見るのが難しくなっている。地域のお祭りや運動会等、行事へ子どもを参加させることに困っている、というのは……

〇〇委員 そこも同じ条件で、自治会とか、今のエリアの中に住んでいらっしゃる方はそういうルートで子どもを拾えますけれども、遠くから通っていらっしゃる方も、東愛宕小学校の子どもなんですけど、うちの地域、東西も含めた昔からの自治会の連合体がありまして、そこが主催して盆踊りなどお祭り、運動会をするので、今年は西愛宕小学校が会場ということで交互にやっているのですけども、そこに参加してもらいたいののですけども、子どもたちの話し合いの中で、今度運動会あって、おれリレー出るんだと言ったとしても、結局大人のサイドの連絡は離れたところにあるのでとれません。ですから出たいなといったら声を上げて出してあげてよと言うのですが、なかなかそれができないですからはずれてしまう。だからその人たちも一緒に仲間になりたいけど、ぼつんぼつんとお見えになるのでとても難しい。ですから地域で見てくださいと言うと、えっあの子1人で帰るのについていう、朝だけは通りますけれど、とてもそれは……。それで何かあるときに、子どもが地域で見てくださいと言われると、そこは無理ですと。離れたところから来るお子さんに関しては。ですから実際には他地区から通っている東愛宕小学校の子どもが、東愛宕と西愛宕の地域でやっている運動会に参加してくださる方はほとんどいないですよ。ですけども、学校選択制で、西愛宕のエリアの方が東愛宕小に来ている場合は、東西対抗戦をやるものですから、エリア的には西愛宕だから、東愛宕小に通っているけどあの子もあの子も西愛宕側と一緒に走っているじゃないっていつも言っています。それはそういう同じエリアの中、

つまり多摩ニュータウン建設したときの17住区の中の集まりとして行事をしているときにはそういう形で入りますから、そこからはずれたほうから通っていらっしゃるお子さんについては、どうしても面倒は見切れません。17住区で建った当時、西愛宕の半分くらいしか建っていなかったですね。その後次々に新しい団地ができて、多摩センター近くの方々たちがそのグループにおくれて入っていらっしゃるから、その地域の問題が、多分西愛宕は地域としてまとめるときにすごく〇〇委員がご苦労なさっている部分じゃないかなと。一斉にできたところと後からできたところ。東愛宕の場合は一斉にできた仲間だけでやっていますので、その意味で言えばこの間お話ししたみたいに、女性の騎馬戦ができる、若手がわっと集まったんだよというグループですので、その辺はうまくいっているかなと思います。私がやりやすい部分です。

〇〇委員　うちのほうは既存の都営団地プラス新しく公団の分譲が何件か建っていて、その愛宕の自治会の連合協議会にも入っていない自治会もあります。そうなったときに小学校側のほうでは運動会するときにも誘って応援団一緒にやろうとか言えますけれども、親に関しては一切関係なしという。現実には、その地域性が少し出てしまう部分もあるんですね。現実には運動会自体も高齢者のほうがすごく多いんですよ。西愛宕小学校の運動会は秋にやるので、それと1週間2週間しか違わないという形になってしまうと、2回もやっている感じに。その辺の兼ね合いもあるのと、もし学校に行ったときに保護者の情熱と言う部分ですけども、役員を決めるのも大変。保護者会にも来ません。そうしたときにスタッフ制とか工夫をしながら小学校側の中ではやっているのですが、現実にも今は崩壊状態というか本当に役員決めるのが大変な状況というのが現実にあるんです。だから地域にお願いしたいと言っても地域でもその役員をやる人間も少ない。学校の保護者にとっても学校の保護者側も少ない。もちろん子どもも少ないですから親もその分少ないということもあるので、かなりその辺が微妙に大変、それが本当の現状です。

会長　　そういう面は、子どもが少ないことが親御さん同士の関係にも影響するかもしれないですね。

〇〇委員　いや、そうでなくても、どこの地区も役員をやる人は……

会長　　他の学校の方はどうですか。

〇〇委員　保護者会は必ず8割出席……

〇〇委員　それはすごい。

〇〇委員　規模がある程度あると、6年間に1回で済む感じになりますので、バトルの程度は大分違うというか。

〇〇委員　行ったら役員やらなきゃいけないって、来ない人もいるから。

〇〇委員 保護者会に出てくる親御さん自体少ないので、やっていないからといってそういう方に役員を任せてしまっても、結局他の方に迷惑がかかって、保護者会にも来ないくらいだから役員会になんか出てくるわけがないという状態になってしまうので、そうなるとう結局だれかだけに負担がかかる感じにはなりますね。いつも見る人、会う人は一緒に、6年間、単学級なのでクラス替えもなくいきますよね。入学式のときって他のお母さんの顔なんてあまり見ていないですよ。自分の子どもを見ていたりして。それで第1回目の保護者会から来られなかったりして、6年間全く顔を見ないで卒業式のときにもああ、この子のお母さんみたいな、そういうのはすごくありますよね。それは、西愛宕小は特に多いと思います。東愛宕小は本部役員はここ数年変わらずに来ていらっしゃっていると聞いているのですけれども、西愛宕小に関しては本部も全て総入れ替えなので、役員の引き継ぎが終わった後の何カ月かは何をやればいいのかみんなわからなくて、だれも知らない状態でやるので大変ですよ。

〇〇委員 それが親御さんたちの現状です。

〇〇委員伺いたいのですが、そういう状況でもし仮に統合をと考えたときにどういう問題が考えられるのか、どういうことを考慮していく必要があると思われませんか。ぜひ教えてほしいのですが。

〇〇委員 出てきてくださらない方の親御さんのほうがすごく変なところだけ出しゃばってくる感じが……すみません、言葉が悪くて。変なところだけ、よくわからないことでごちゃごちゃうるさいんです。学校にも変なことでどなり込んでいたりする感じなんです。なので仮に東愛宕小の校舎を使いましょうとなったときに、どんな事が起こるのかなというのは正直あって、今回この審議会に私が出るに至る経緯もものすごく時間がかかって皆さんをお待たせしたのはそういうところもあって、結局代表者1人という形で出るにあたって、その人に向けられる誹謗中傷がものすごく、仮に統合になって東愛宕小の施設を使うというふうになったときにどれだけのことが返ってくるのだろうというところで、1人では抱えきれないということでオブザーバーだったりとか、審議委員をもう1人増やしてもらえないかとかいう形でお願いしていたのですけれども、それくらい意識も希薄ですし、変なところだけモンスターのようなところがあって。どうなってしまうのかなという不安があります。素朴に不安です。

〇〇委員 だからこのメインは保護者の情熱というのがかなり微妙なところになるんです。子どもたちは結構柔軟性があるので、一緒になれば仲良くできると思うんです。はっきり言って。統合することに関しては。ただ、周りの大人のほうがどうなっちゃうのかなというのが現状じゃないですかね。それを納得させるとかという以前に、本当に暴れるじゃないですけど、結構いろいろ難しい部分があるのではないかと思いますね。

会長 代表で出て行くとすごく責任を感じて、それぞれ話をされていると思いますが、これま

でのいろいろな経験とかそういうもので先ほど話をしたように、結局はこういう公の場所の考え方というのと、皆さん方の我が子への考えはほとんど一致しているわけですから、そういう視点で物事を見ていったら決して間違っていない。知、徳、体という人間形成の基礎になる小学校時代は特に基礎を養わなくてはいけない。感性ですね、そして知性と体力。そういうものを養っていくことは、どこに出しても間違いはない基本的なことから、そういう基礎を養うために、少しでも子どもの人数を増やしたほうがいいのかという討議を真剣にしているわけで、これは長い目を見たときに、このままでいいのかどうかという、そういう目で見えてあげないといけないから、大人の視点ではなくて子どもの視点から考えなくてはいけないけれども、どうしても地域に住んでいると郷愁の念というか親の気持ちがあるからつらいところもあるかと思えますけれども、ここは子どもの立場から考えて、子どもの将来の幸せという視点から皆さんが一致して話をしていられると良いかと思うんです。今の場合、西愛宕、東愛宕がどうのこうのと言っているけれども、結局お話を伺っていると、子ども同士は愛宕は一つになった動きをしているわけですね。そういう状況で統合というときに、どういう問題を解決したらうまくいくかということで、親御さん同士の考え方というものもあるのだけれども、それは情熱を持ってもっといろいろかかわれというのはあるのでしょうけど、他の問題でももっとこうしたら皆さん納得して良い方向で行けるのではないかという、解決策というか方向性を今検討しているので、もっとこうしたらいいとか、これはできないかという、かなり無理なことを事務局にお願いして、法的に無理なこともあるわけですがけれども、この際にいろいろなことを十分出し切っていたいただければいいかと思えますけれども。そうすると〇〇委員も安心できますから。

どうぞ。お話しただければいいと思います。

〇〇委員 先ほど、地域にできることはそれほど多くない。安全や、授業ではできない体験等しかできない、とあるのですが、まさにそのとおりだと思うのですが、数年前に多摩市に初めて来まして、ここの地域の皆さん本当にすばらしいと思ったのは、三十数年という新しい町ですよ。本当に脈々と三十数年流れてきているのが、落合にいますとここにいる子どもたちにふるさと落合をつくってやるんだという思いがずっと流れている。私は3年とちょっとですけれども、地域で子どもたちを大きく見ているんです。いろいろな場面で。青少協の皆さんが中心かもしれません。本当によく見ていただいているという思いがしています。地域でできることは限られていると書かれていますけれども、統合した際に多摩市の地域の皆さんが力になっていただけるのだらうなと思います。例えば自分の学校のことですけれども、図書ボランティアということをやってもらっていますが、その半数以上はもう学校に子どもさんがいないんです。もうずっとやってくれている地域の方です。ですから地域、学校に愛着を感じていただいている。古い町よりもむしろ新しい多摩市に来て感じます。それは統合した際に、大きな力になってくれる気がします。

会長 話が少しずつ進んできましたけれども、少なくとも統合に関して、子どもは少ないよりも多いほうが良いということに関しては反対の意見はなかったようです。基礎的学力をつけるとか特色のある学校をつくるか、できたら先生方の配置を工夫できないかとか、そういうことはありましたね。そういうことが解決できるかどうかという問題が出てきたと

思います。その他何か追加で出てきたものはありますか。

〇〇委員 細やかな視点で、長い目で見てということをお〇〇委員がおっしゃいましたけれども、両校の状況をもう少し詳しく取り込むということだと思います。

会長 両校のいろいろな状況にもう少しふみこんで、統合を考えるとときの良い方向をもっと詰めて、みんなができるだけ納得のいく方向で考えていきたい、進めていきたいということで、対策の方向は今日いくつか言っていただきましたが、次回にはこの件についてはこういうことが可能とか、無理かもわからないとか、そういうことを事務局で整理していただいて、今日出てきたものをもとに最終的に方向づけをしていきたいと思っております。いかがでしょうか。

〇〇委員 東愛宕小学校の特別支援学級のことは、ここで意見は言えないと思うのですが、統合のこととは切り離してと言ったらおかしいですけど、で考えてもいいのでしょうか。それとも普段は完全に特別支援のほうに行っている子と教室にいる子もいるのですよね。

〇〇委員 特別支援ですから毎日通っているわけではないので、他の学校からお見えになるし、1週間に1回の子もいれば2回の子もいれば、校内から特別支援に行っているお子さんだっただけで普段はもちろん普通の学級で授業を受けていて、1週間に一遍だけ何時間か行きますとか。あくまでも特別支援、固定級ではないですから、通級学級ですから。

〇〇委員 東愛宕小を見たときにかなり特色がある部分になるので、かかわり方も。西愛宕小と一緒にになったときにいろいろね……

〇〇委員 PTAの会員さんだっただけで通級だっただけのだから他の小学校から通ってくるのだから関係ないです、うちの学校から1時間だけ通っていらっしゃるお子さんはうちのクラスのお子さんだから。

会長 はい。どうもありがとうございました。時間が経って来ました。私のメモの裏に書いてあるまとめの方向がこれでいいかどうか確認させていただいて、次回はその対策、方策がどういう方向に行けるかを事務局でまとめていただくので、その前にこの考え方ですね。これから選挙もあります。今世の中、政治・経済は混乱期にあつて、教育界も1,400人の先生が辞めて、また入ってくるという、世の中大きな入れ替わりがあるんです。教育の動きも予測がつかないいろいろな状況が学校にも出てくるかもしれない。校長先生方は大変になってくると思いますけれども。だからといっていつも受け身の生活ではなく、子どもたちは不透明の時代をたくましく自分で生き抜ける力をつけておく必要があるわけです。最後は自分ですね。小学校4年生あたりはもう、自分って何者だろうって言って一番悩む時期と言われておりますけれども、そういうことで生き抜ける力をつけておく必要があります。そうしておくことで親御さんは安心して我が子を社会の荒波へ送り込むことができるでしょうと書きました。そこで、生きる力をつけるには、より良く生きる力です。

でない、生きる力というオレオレ詐欺も生きる力に結びつきますからね。そういうのではなく、良く生きる力ですね。善の生きる力をつけるには、人間形成の基礎をつくる小学校時代に多くの人々・多くの自然にかかわって、皆さんの挙げた善悪の判断ができるように感性を磨く必要があります。小学校時代は感性がすごく重要だと言われております。脳科学の世界でも最近言われていて、皆さん方ご納得されていると思います。そのためには、いろんな個性の持ち主と多く遊んで学びあうことです。友達が多いほど、ものの見方・考え方が広がり生涯を共にできる友もできやすくなるでしょう。そのためには、先ほど出てきました親御さんの情熱とかありましたけれども、親御さん同士の豊かなかわり合いは重要です。親御さんたちが仲が良いと子どもも仲良くなるし、そういうことで子どもというのは親の姿、先生の姿を見て育つわけです。

今、唯一、集団が集まりやすい場は学校ということになるわけです。学校がこういう役割を果たすには学校自身もそれに見合う環境ができていくことが望ましいと言えます。そこで、皆さんの意見にあるように東西愛宕小が統合により、より良い環境がもしできるとするならば、社会性・人間性豊かな子どもの育成に全力を挙げるべきだと考えますと、私なりにまとめてみました。もしこれについて意見をいただければと思います。

〇〇委員 これは以前、今後の論議の進め方について決めた、A案の真ん中の卵の部分がゆで卵みたいになって、まず統合はやりますよというような話になりますか。まだですか。

会長 いいえ、まだです。

〇〇委員 今日いくつかいろいろな意見が挙がって、例えば4年生のお子さん、〇〇委員のお子さんの学年もそうかもしれないけれども、他の学年はどうなのかなという個人的な質問もあるのですが、今はだめでも2年後は、3年後はとか、ずっとこのままでいいのかとか、課題があるのだったら少人数ができる体制、ピアティーチャー、担任の先生の力はもちろんですが人的配置も考えた上で、とにかくまずはやったほうがいいんじゃないかというものを立てた上でいろいろな支えになるものをつけていったほうが話は早い気がするんです。でないといつまでたっても、いろいろな意見が出ているのにやるんだかやらないんだかわからない状態になっていて……

会長 そうですか。私はもし統合するならばという仮定を言ったのですが、そうでなくてももう統合を前提で条件を考えるとということですか。

〇〇委員 そうです。だからそれを前提とすることに違和感がある方がいらっしゃるのだったら話は別です。例えば2年後、また5年後ならいいとか合意が得られるのであれば。

会長 皆さんどうですか。今の〇〇委員のご意見。大分今までそういう方向で流れてきていますが。

〇〇委員 まだ、統合を大前提にはしてほしくないです。今、東愛宕小学校のおかれている状況よ

り良くなるという保証がない限りは、小規模だけれども今の学校で十分。多分西愛宕小もそうだと思うんです。何もあえて統合する必要はない。ただ、子どもが少なくなって、統合以前に東西愛宕小学校がなくなってしまう可能性もあるのは見越しています。もしそうなら、竜ヶ峰小方式でいきたいと私は思っています。統合することで、西愛宕小も東愛宕小も今置かれている状況よりも本当に良い学校になるという保証がない限りは、先に統合ありきではないと思います。その条件が可能だったら統合賛成なんです。今の状況ですと必ずしも保証されない、単学級は単学級でいってしまうだろうと思ったら、ずっと小さくなって消えてもいいなと。そんな感じです。

〇〇委員 先ほど、学校は何のためにあるんだというところで言ったのですが、ペーパーの学習面だけでなく、会長が書かれているようにいろいろなことを学びと称して、それを得る場が学校とするならば、小規模校が悪いというのではないのだけれども、どんどん小規模校化して行ってそれこそ教育の場を奪っている。多くの大人が少ない子どもを見る、他の学校だったら子どもがわっといて先生方がいる中で、先生もある程度いる中で少ない子どもを見るという状況に追い込んでしまう。それを手厚く保護していると自分たちは思う、良い学習効果を与えていると思う、でもそうなのかなと私は思うのですけれども。

今、保証がない限りっておっしゃったのですけれども例えば私は東落合小学校と落合中学校と2つ統合を経験してきました。2つとも良くなっていると思います。おそらく多摩永山中とか今の竜ヶ峰小から多摩第二小に行った子どもたち、たしかに竜ヶ峰小は地域にとって学校がなくなったことは寂しいことだと思うのですが、竜ヶ峰小から多摩第二小に行った子どもたちが今どうなのかということまでも考えてみないと、保証があるかないかということ簡単に推し進めることはできないだろうと思います。

〇〇委員 私たちがそれを納得するような案を皆さんに出していただけたら。東愛宕小も西愛宕小も別に最初から、平成10年から統合を考えていた地域ですから、私たちはまだ話が来ないって言いまくっていましたが、私は、Dゾーンで統合の話が出てから、条件が全然変わっていない。あのときから東西愛宕小を一緒にしたって大きくなる、先が見えているのだから統合するならもっとちゃんと考えてよって言って、多摩第三小を絡めたりして案が出て、白紙にして、地域から自由学校って、私たちからすればもう10年待たされているんです。ですから統合反対と言っているのではない。その間私たち日々努力して小規模校を一生懸命支えてきたんですよ。地域から言ってもレベルを落とさないように。それを突然急にあなたたち一緒になるよと言われてたら、なおかつそのときの条件が変わっていないですよ。東西愛宕小が一緒になったって、大きな学校にならないというのは10年前から言っていたんです。だから待ちに待った統合の話なんです。正直に言えば。私、他の人に聞いたら、えっ今度うちじゃないのと言うと、いや、あっちのほうが先に小さくなったから向こうだよと言われて、やっと来た統合の話なんです。でも条件変わっていない。その間、東西愛宕の小学校を小規模ながらも良い学校にしようと思って私たち努力してきたのに。はっきり言ってこの状況は10年前に見えていました。ずっと住んでいる地域ですから、子どもたちの減っていくのもわかっていました。その中で努力してきて、今ここにきて、小規模校大変だろうといったら大規模校にならない。中規模にもならない。また同じ

学校です。そうしたら東西愛宕小の私たちの思いが。だから皆さんがそれでもなおかつこういう良い学校になるよと私たちに納得させてください。良いアイデアを出していただいて。多摩第二小を絡めますよと言ったら多摩第二小は委員も出していないじゃないですか。そういう中で最初から統合ありきと言われたら、10年待っていた私たちはいずれ統合しなくてはいけないってわかっているんです。小規模校で支えてきた私たちはどうなるのですか。また小規模校になるんですよ。前は小規模校の問題点をすごく言わせていただきました。今、小規模校を支えています私たち地域で。今日、私は小規模校だってすごく良いということ逆を言わせていただきました。問題点を感じていないわけではないんです。クラスもうまくいってればいいです。一たんこけたらサポートできないのですよ、クラスがだめになったら。2クラスあれば、先生が2人組みながらこの学年を見られるんです。それはわかっています。見てきたんですから。ベテランだろうが新人だろうが単学級の大変さも見てきましたから。私たちは地域で支えてきたんです。それを突然来て、10年前と同じ条件の話をまた蒸し返しているんです。なおかつ大変だろうってわかっていますよ、やってきたんですから。だから、私たち地域みんな納得する形で東西愛宕小と一緒になくても、小規模でもいいというのか、もう少し増やしてくれるよう何か手を打ってくださるのか、ぜひベテランの学識経験者の知恵が欲しいです。地域的に言えば、コミセンのエリアでも第三だったらコミセンエリア1つなんです。ただしコミセンは建物を2つ持っています。ということは地域的に一緒じゃないような、多摩市がコミセンをつくるときの17エリアを10エリアにしていますよね。10エリアで11コミセンの建物が建つ予定なんです。そういうふうに地域のエリアでみんなそれぞれなりに努力しているのを突然あっちと一緒になれって言われたらはい、私嫌だよと。しかも多摩第二小は入ってきません。したら小規模であるという条件は全然変わっていないじゃないですか。そこをどうにかしてくれるのだったら、素直に納得するような。10年待っていたんですよ。そこです。

会長 ありがとうございます。良い知恵を出して統合する場合にどんなことができるか、良い方向、特色等を考えて知恵を出し合って今のつなぎでいきたいと思えます。よろしいでしょうか。今日いろいろ出てきたものについて、どうできるかは事務局にまとめていただきます。

 それでは今日はこれくらいにしておきますけれども、次回は今日出てきたいろいろな課題、〇〇委員がおっしゃったようにまだたくさんあるかと思えます。知恵を出していただいて、魅力ある学校への対策を考えたいと思えます。次回は8月24日の午後7時からということでもよろしいでしょうか。

事務局 第8回、第9回の日程の調整をこの場でさせていただきたいと思えます。まず第8回についてですが、以前に日中の開会のご希望がございました。事務局としまして、正副会長との調整や会議室の予約状況等を確認した結果、第8回についてはできましたら10月1日の午後1時30分から2時間程度でお願いしたいと思うのですが、委員の皆さんのご参加がいただければこの日としたいのですがいかがでしょうか。

(第8回、第9回審議会の日程調整)

事務局 第8回は9月30日夜7時から。第9回につきましては10月19日月曜日の午前10時から開催させていただきたいと思います。

会長 では、時間が延びましたが、今日はありがとうございました。最後、盛り上がりました。またしっかりやっていきたいと思います。ありがとうございました。